
鴉が鳴くのを待っている！

橘 まおしん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鴉が鳴くのを待っている！

【Nコード】

N0997Z

【作者名】

橘 まおしん

【あらすじ】

閻魔大王に育てられた不思議な経験を持つ古居鴉は、フルイカラス高校生活を謳歌していた。

ある日、現世に現れた悪魔を自転車で轢いてしまい、鴉の生活は180度変わってしまう。

鴉は学校生活を取り戻す事ができるのか・・・？

プロローグ

突然なんだが、学校ってのは良いもんだ。

友達といえるのは楽しいし、授業もちゃんと理解できれば面白いと思う。

今まで学校生活を送ってこなかった俺には、新鮮だからそう思うのだろうが……。

変わっている……。そう、確かに俺は変わっているんだ。

17年間生きてきて、こんな事改まって普通は思わないだろう。だが俺は、思ってしまう。思わない方が可笑しいと言うものだ。何せ、俺は初めての学校生活だからだ。

俺は高校からなんだ。普通ありえない、ありえないのだけれど。

”閻魔”に育てられた。死んだら出会うあの閻魔大王に。

いつからだったか覚えていないが気付けば、当たり前のように一緒に暮らしていた。

いや、こき使われていたと言った方が正しい気がする。

飯を作り、掃除・洗濯……。家事全般。そして、仕事の雑用などなど。。。

それが、つい最近まで俺が当たり前のようにやってきた事だ。

そして、2年前――――

「なあ、鴉。アンタ、学校に行きたいかい？」

「あ？学校？……。現世で俺らの年のやつが通うっていうやつか？」

突然、キッチンに立つ俺に閻魔は話しかけてきた。

「ああ、そうだよ。アンタも立派に成長したしね、アタイの仕事の雑用ばかりではつまらんだろ？」

「んあ……。つまらなくはないが。どうだろな、わからん」

晩飯を作る俺は手を止めずに自分の気持ちを伝えた。

此処にいるのはつまらなくない。閻魔が仕事に行っている間は、この家にある書物を読み漁る事が出来るし外に出れば天界の奴らにも会いにいける。最近、天界横丁の肉屋がタイムセールをするのでそれが楽しみでしようがない。

「現世に興味はあるんだろう？」

「あるか、ないかで言ったらあるけどよ。俺は死んでるんじゃないのか？ だったら――」

「言い忘れてたけどさ、アンタ死んでないよ」

「・・・へ？」

突然の告白に俺は素っ頓狂な声を上げて、閻魔の方に振り返った。閻魔は俺の心の動揺をまったく気にしていない様子で書類を眺めている。

「はあ？？？え、どういう事？死んでないのに天界に居るの俺？」

「アンタは死んでいないんだ。アタイがね、両親が居ないアンタを可哀想だから引き取ったんだ」

「ちょっと待て！！！気持ちの整理が・・・え、じゃあどうして此処にいられるわけ？」

料理していた手を止めて、疑問をぶつけてしまう。死んでいない、確かに誰もそんな事言わなかった。閻魔も、隣に住む長屋のおばちゃんも。

「アンタは少し特殊なんだよ。ただそれだけの事さ」

「・・・お、おう」

とくしゅ、特殊ねえ・・・。そんな二文字で片付けられても。

「よし！アンタ、学校行ってきな！」

「か、勝手に決めるな！俺はまだ行くと決めっ――」

俺がその台詞を言おうとした時、閻魔近づいてきた。

そして、俺の胸倉を掴んで眉を寄せながら言った。

「いいから行くんだよ・・・わかったあ？」

「・・・は、はい」

そんな事があり、俺は現世に神無川かみなしがわ県にある高校に入学する事になった。

入試は面接とテスト。テストは余裕で通り、面接は閻魔と一緒に受けた。

閻魔の奴は姉という設定で……。

住む所は勿論、何から何まで閻魔が決めてしまったが……。無事に俺は現世で生きていく事が出来ている。

「おゝい、鴉ゝ！」

「へ？」

ふいに名前を呼ばれて、返事をしたが声が裏返ってしまった。

「へ？ じゃなゝい！！！」

そして、ザクつという音。そうそう、ザクつとね？

「いってえええ！！！！何しやがる、このエロ教師がつ！！！」

その黒いやツ硬くて痛いんだぞ？ わかってんのか！？

「鴉ゝゝ、今違う事考えてたでしょ？ それと、言葉遣いに気をつけなさいよ！」

教壇で授業をしていた陽乃村羅夢先生ひのむらむ、通称・エロ教師。

俺は正直陽乃村先生が苦手だ……。この先生はとにかく体の接触が多いんだ。

意識してやってるんじゃないかと思うくらいに。

「ま、いいわ。授業が終わったらアタシの所に来なさいね」

「ええっ！？」

「お仕置きよ。荷物運び手伝いなさい」

「ういゝ……」

それを聞いて俺の気分は急降下だ。今度は何をされるか……。意気消沈して席に着く俺と違って、クラスの連中は笑っている。くそう、俺も笑う側に一回は回ってみたいもんだ。

「さ、授業を続けるわよ。……この問題は—————」

陽乃村先生が、場を取り直すとクラスの皆は笑い声消えて授業を真剣に聞きます。

俺も黒板に書かれた事を写しながら、先生の話を改めて聞きなおした。

こんな日常が現世にあつたなんてな。

なぜ、俺は天界あそこにいたんだろうか。

ちょっと不思議だ。ま、別にいいんだけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0997z/>

鴉が鳴くのを待っている！

2011年12月3日20時48分発行